

鴨沂の流儀

進路指導部だより
平成30年1月10日発行・第12号
京都府立鴨沂高等学校
進路指導部

《新春特別号》

受験文化を根付かせるために ーチャレンジなくして成功なしー

校長 藤井 直

◆センター試験、いよいよ決戦の時！

いよいよセンター試験が始まります。受験する一人一人が積み重ねてきたこれまでの努力は決して裏切りません。細心の注意を払って準備をし、ぎりぎりのところまで力を伸ばし、自信を持って試験に臨んでください。

センター試験受験者は、毎年18歳年齢の約半分で、今年の受験者数は58万3千人、参加大学数、受験者数、現役志願率も近年増え続けています。京都府では、昨年の志願者の増加率が全国で最も高くなりました。これは、公立高校入試改革最初の卒業生の大学進学意識が高まった結果であり、センター試験受験のメリットに対する理解が一層深まったともいえ、今年も受験者数・現役志願率ともに伸びています。

本校でも、近年はセンター受験者、国公立大学合格者ともに増え、今年は、3年生の半数近くがセンター試験を受けるようになりました。

◆チャレンジなくして成功なし

本校は、入ってから伸ばす、面倒見の良い学校を目指しています。しかし、いくら先生方が熱心に指導しても、生徒の皆さん自身が行動しなければ成果は上がりません。

今、皆さんに必要なのは、「チャレンジなくして成功なし」という考え方です。教師や親に言われるまま行動するのではなく、自らが高い目標を定め、挑戦し続けてこそ、夢は実現するのです。その過程には、幾多の困難も失敗もあるでしょう。しかし、失敗とは、成功のために必要なプロセスであり、失敗を恐れず懲りずに挑戦し続ける姿勢が、やがて成功に導くことになることは、多くの先人たちの足跡が物語っています。

◆学習文化・受験文化を根付かせる

もうひとつ皆さんに望むことは、生徒同士が互いに育て合い、育ち合う環境を作ることです。大学受験は団体戦だとよく言われます。受験するのは個人でも、互いに励まし合い、切磋琢磨して力を伸ばし合うことで、相乗効果を生むからです。また、成果を上げた先輩がそのノウハウを後輩に伝授する。こういう学習文化・受験文化を根付かせ、互いに成長し合える鴨沂高校にしてください。

◆自信を持って社会に羽ばたけ！

挑戦し続けることで得られるものは自信です。かつての本校生徒の口癖だった「どうせ鴨沂やし」というネガティブ思考を捨て、「だめでもともと」とか「ピンチをチャンスに」とかいうポジティブな発想に転換し、自信を持つことが成功につながります。

そして、鴨沂高校に入って良かった、という満足感を持って未来の社会に羽ばたいてくれることを願っています。

新たな年を迎えました。今年がみなさんにとって成長の年、挑戦の年として特別な1年になりますように。その思いをこめて、進路指導部だより『鴨沂の流儀』も、校長先生からの特別寄稿でスタートをきりました。今年も『鴨沂の流儀』は、鴨沂高校生と一緒に走ります！

第1学年「第3回進研実力テスト」は、1月24日（水）です。

11月2日に実施された第2回から約3カ月。この3カ月での君たちの学習の深化を問う実力テストです。それぞれに目標を持って臨むことが大切です。自己ベスト更新を狙っちゃいましょう。



1年生、2年生も知っておこう

センター試験の前と後 勝利のストーリー全部見せます

- | | | |
|---|----------|-----------------|
| ① | センター激励会 | 1月10日(水) |
| ② | センター試験 | 1月13日(土) 14日(日) |
| ③ | 自己採点会 | 1月15日(月) |
| ④ | 業者にデータ送付 | 1月15日(月) |
| ⑤ | 出願希望調査提出 | 1月16日(火) |
| ⑥ | 判定システム起動 | 1月17日(水) |
| ⑦ | 出願検討会議 | |
| ⑧ | 三者面談 | |
| ⑨ | 各大学へ二次出願 | 1月22日(月)～31日(水) |
| ⑩ | 二次試験受験 | |

センター試験の前後は激動の10日間。人生でも最大級のドラマティックな10日間です。1年生、2年生の人も仮想体験してみてください。



- ① 出陣に向けて闘魂伝承。最後の注意、とっておきのアドバイスで受験生を激励します。1人じゃない。みんなで戦うのがセンター試験です。烈炎の気合いで勝利に向かって咆哮する時です。
- ② いざ、決戦の場へ。決めていた科目をしっかりと受けきる。解答の際は問題冊子に必ずチェックする。これをしていないと正確な自己採点ができません。他の諸々の注意点は①で話します。
- ③ 6限の時間に自己採点会をします。解答をチェックしたセンター問題は絶対忘れないように。
- ④ 当日の夕方に成績を業者が回収します。ベネッセ・駿台と河合塾にデータを送ります。
- ⑤ この時点で出願を考えている学校を記した「出願希望調査」を担任に提出します。
- ⑥ 二次判定システム、ベネッセ・駿台の「コンパス」河合塾の「バンザイ・システム」が学校に届きます。君たちもスマホ等に点数を打ち込めば調べることができます。
- ⑦ 君たちが提出した⑤や、データなどをもとに担任、進路指導部を中心とした教員チームで1人1人の出願計画を検討します。諸条件を総合してベストの出願先を探します。
- ⑧ ⑦の結果をもとに出願先を考えます。センターの成績が予想以上に良かった場合も、逆に予想以上に悪かった場合も、これまで君たちの意識になかった様々な大学が新たに目の前に現れます。でも、最後に決めるのは君たち自身です。人生の重要な決断となりますので可能な限り保護者を交えた三者面談で考えます。
- ⑨ 国公立大学の出願は前期、中期、後期すべてがこの時期に出願です。

この10日間がなぜ大変なのか。それは、センターから二次出願までの日程に余裕がないからです。したがってセンター試験前後は、多くの高校がほぼこの流れになります。違いがあるとすれば、鴨沂の場合、ここに生徒、保護者と一体となった教員の熱い懸命な思いがみなぎることです。私立大学一般入試も近づいています。今こそ積み重ねてきた努力の成果を発揮する時です。

くら☆すた 第11話「絶対に言ってはいけないセンター会場での一言」の巻

鞍馬ノボル： 会場に来てみるといろいろ気づくことがあるね。

鴨川みぎわ： 私の席はけっこう暑いんだけど、このあたりはひんやりしてるんだ。同じ会場でも随分違うわね。

ノボル： 学校でのテストと違って待ち時間が長いから気持ちの持っていくかたが難しいな。

みぎわ： うん。ポイントをまとめたノートを持ってきておいてよかった。まだ次のテストまで時間あるから、キットカット食べながら見直しをするわ。

勇気ナエ： ねえねえ、さっきの問いの3番なんだけど。

みぎわ： だめー！

ナエ： だから、といのさんばんは…。

みぎわ： ワーッ！ もうっ、ナエちゃんは、激励会の亀村先生の話聞いてなかったの？ それは絶対に言ってはいけないはずでしょ。もうっ、私、席に戻るからね。

ナエ： …さっき、通りの方からサンバの音が流れてこなかった？ って言いたかったのに。何を慌てていたのかな…？ すんだ問題は振り返らず、次の時間のテストにとにかく備える。これがセンター試験の長い休憩時間の鉄則です。